

1. 大淀川の概要

1.1 流域及び河川の概要

1. 大淀川の概要

1.1 流域及び河川の概要

1.1.1 流域の概要

大淀川は、その源を鹿児島県曾於市中岳に発し、北流して都城盆地に出て、霧島山系等から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、岩瀬川等を合わせ東に転流して宮崎市高岡町に出て、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら日向灘に注いでいる流域面積 2,230km<sup>2</sup>、幹川流路延長 107km に及ぶ九州屈指の河川です。

その流域は、宮崎県の南西部に位置し、鹿児島、熊本、宮崎の三県にまたがり、6市6町1村が含まれ、社会、経済、文化の基盤をなしているとともに、流域の一部が霧島錦江湾国立公園、九州中央山地国定公園の指定を受けるなど自然環境や景観も特に優れていることから、本水系に対する治水・利水・環境についての意義はきわめて大きいものとなっています。

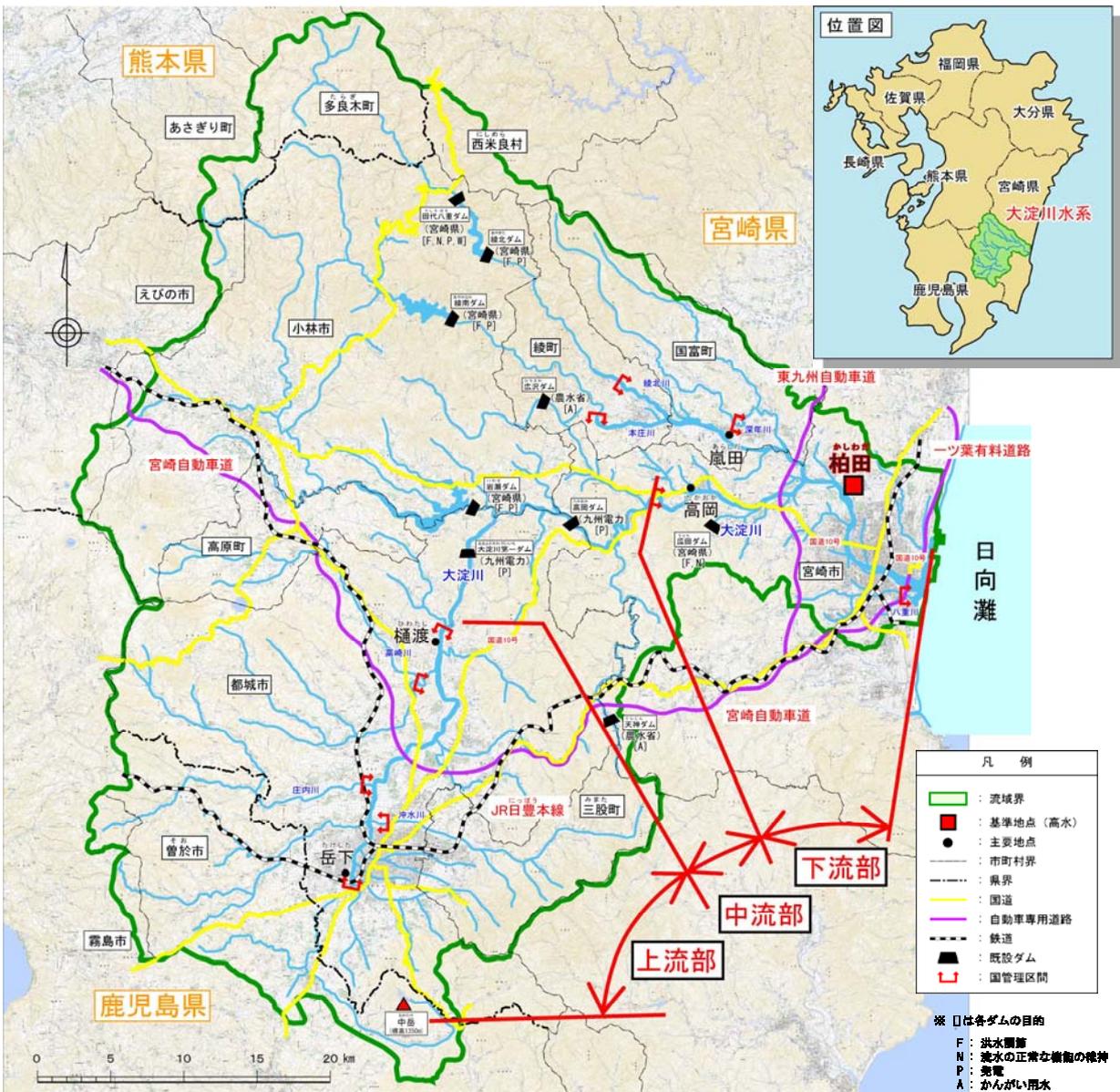


図 1.1.1 大淀川水系流域図

1. 大淀川の概要  
 1.1 流域及び河川の概要

表 1.1.1 大淀川水系流域諸元表

幹川 流路延長 (km)	流域面積 (km <sup>2</sup> )	流域内 人口	想定氾濫区域内			流域内の主な都市と人口 (平成 27 年 10 月時点)
			面積 (km <sup>2</sup> )	人口	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	
107	2,230	約 60 万人	89	約 15 万人	約 1,656	宮崎市 401,138 人 都城市 165,029 人 国富町 19,606 人 綾町 7,345 人

注1) 109 ある一級河川のうち、流路延長は第 46 位、流域面積は第 27 位。  
 注2) 流域内人口、想定氾濫区域内の数値は、第 10 回河川現況調査（調査基準年平成 22 年）によるもの。  
 注3) 流域内の主な都市と人口は、大淀川本川及び最大支川の本庄川沿川の市町を記載しています。値は各市町のホームページによるもの。

1.1.2 地形・地質

(1) 地形

大淀川流域は東西約 55 km、南北約 70 km で、やや長方形をなし、轟<sup>とどろ</sup>付近の中流狭窄部を境とした上流域と下流域に分けられます。都城市を中心とした上流域の盆地は鱈塚山地と霧島火山部との間にあり、盆地内にはかなり広い段丘<sup>わにつか</sup>と沖積地<sup>ちゅうせき</sup>とが発達しています。大淀川は、その盆地内を流れる諸支川を合流して北流し、日向山地と鱈塚山地とがせばまる山間地に入り、高岡付近において宮崎平野に入ります。

下流域は広い沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成しており、北西から流下する本庄川を合流し、日向灘に注いでいます。



図 1.1.2 大淀川流域立体イメージ図

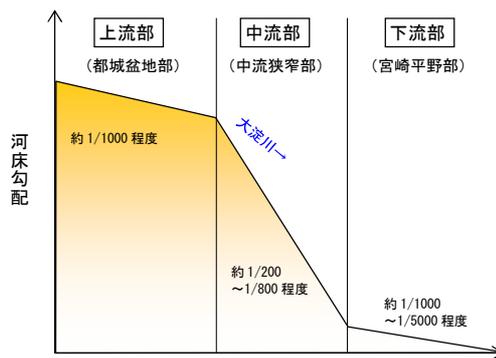


図 1.1.3 大淀川河床勾配イメージ

1. 大淀川の概要  
 1.1 流域及び河川の概要

(2) 地質

大淀川流域の地質は、源流部では中生代の<sup>しまんと</sup>四万十層群が400m内外の山地を形成していますが、都城盆地は第三紀から第四紀にかけて霧島火山群が噴火した際に陥没して形成されたといわれ、その盆地底には沖積層が発達していますが、大部分は厚い火山灰で覆われ、この地域でシラスと呼ばれる軽石の粉末、安山岩の破片、礫等からなる地層を成しています。この盆地に流入する諸支川及び岩瀬川はいずれも火山灰地帯を流れ、河岸に沿って狭長な沖積層が見られ、宮崎市高岡町から下流にいたっては第三紀層がみられ、各所に火山灰をかぶっています。

一方、本庄川の<sup>あやきた</sup>綾北川合流点より上流及び綾北川は、中生代の四万十層群からなる険しい山岳の間を流れ、両川の合流点から下流に至り平地に出ています。図1.1.4でも明らかな様に、都市市付近のほか、広い範囲にわたりシラス層が分布しています。

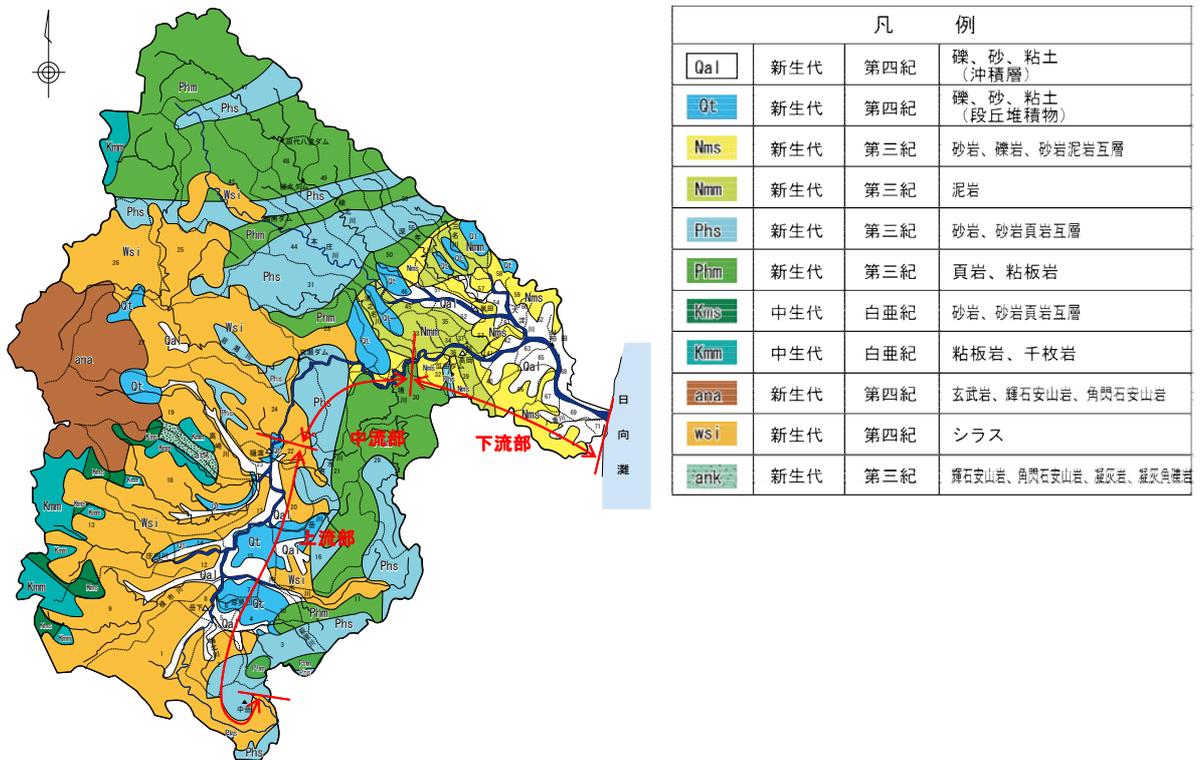


図 1.1.4 大淀川流域地質図

1. 大淀川の概要  
 1.1 流域及び河川の概要

1.1.3 気候・気象

大淀川流域の気候は下流域が南海型気候、上流域（本庄川流域含）が山地型気候に属し、海岸地方では年平均気温が 17℃程度であって、日本で最も温暖な地帯に属しています。しかし、山沿いの地方では年平均気温が 15℃以下となり、霧島山系のえびの高原では冬季の最低気温が氷点下 20℃以下に下がることもあります。

大淀川流域年平均降水量は 2,600 mm 程度であり、鰐塚山地や日向山地等は 2,900～3,000 mm 相当の多雨地域となっています。月別では 6 月～7 月の梅雨期及び 8 月～9 月頃の台風期に集中しており、特に台風が本流域に与える影響は大きく、既往の大規模な洪水のほとんどが台風によるものです。

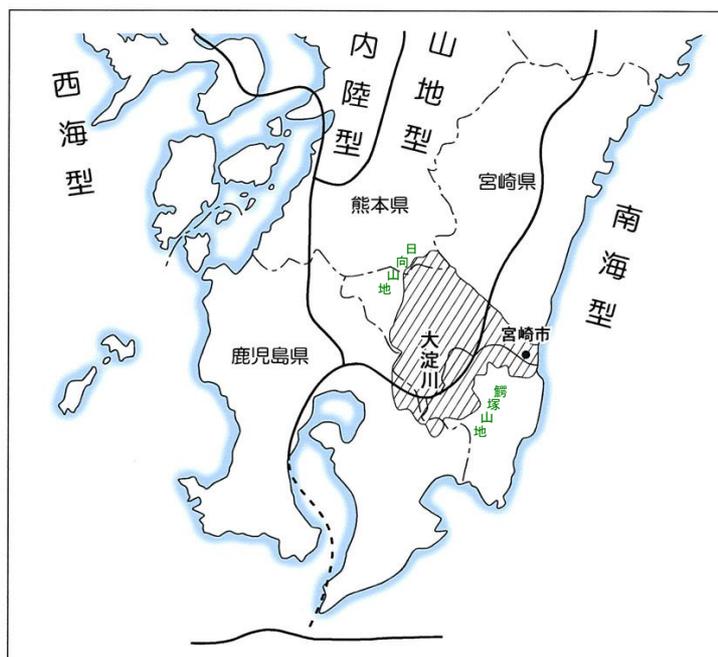


図 1.1.5 気候区分図

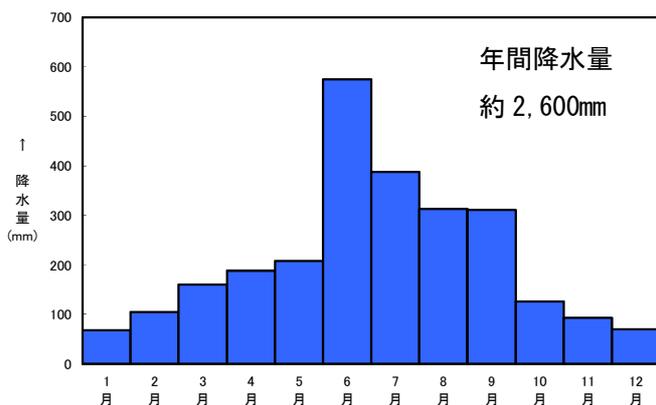


図 1.1.6 流域平均月別降水量  
 (1990～2016年)

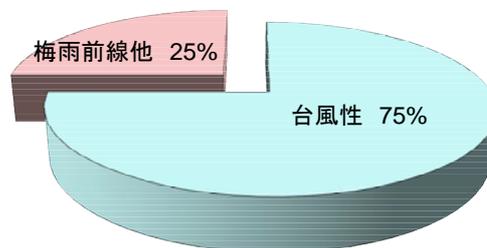


図 1.1.7 大規模出水の洪水要因  
 (柏田地点実績流量(S36～H28)の上位計20洪水)

## 1. 大淀川の概要

### 1.1 流域及び河川の概要

#### 1.1.4 自然環境

大淀川の流域には、気候風土に順応した多種多様な環境が形成され、それにとまなう動植物も多数生息しています。

源流から都城盆地に至る上流部は、ほとんどがシラスによって形成された谷底平野が広がる市街地と田園地帯を緩やかに流下します。河床は砂礫層から成り、瀬にはヨシノボリ類、オイカワ、淵にはコイ等が生息し、高水敷のオギ群落等の草地にはカヤネズミが確認されています。

日向山地と鰐塚山地に挟まれた山間狭窄部の中流部は、自然林と人工林が混在する険しい地形の中を瀬と淵を交互に形成しながら流下します。河岸は広葉樹林や竹林等の河畔林が形成されています。

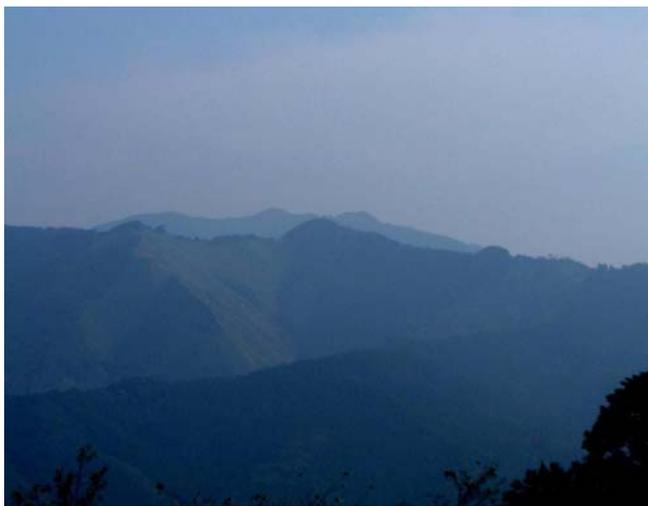
宮崎平野が広がる下流部の山付き区間は、スダジイ等の照葉樹林の中を流れ、宮崎平野に入った後は瀬や淵を交互に形成しながら流下しています。流れが穏やかでやや深い淀みを有する汽水域には、多くの稚魚の生息場所となるコアマモ群落が分布し、その周辺には国内固有種で、宮崎県と高知県を主要な生息場所としているアカメが生息します。河口周辺の砂浜ではアカウミガメの産卵がみられ、タブノキ等の河畔林で囲まれた丸島<sup>まるしま</sup>と呼ばれる中州は、ミサゴやサギ類等多くの鳥類が生息する多種多様な環境となっています。

最大支川の本庄川流域は、四万十層群に覆われた急峻な地形を有し、国内でも貴重な照葉樹林帯の中を流れており、九州屈指の清流となっています。平野部にはいと蛇行が大きく、広い低水敷に形成されたワンドには、ササバモやミズキンバイ等の水生植物が生育し、ミナミメダカ、モツゴ等の良好な生息環境を創り出しています。

また、このように大淀川流域は、自然環境に恵まれた地域が多いことから、図 1.1.8 及び表 1.1.2 に示すように国立・国定公園や県立自然公園が指定されています。



1. 大淀川の概要  
1.1 流域及び河川の概要



◀ 源流部(鹿児島県曾於市中岳)  
スギ・ヒノキ等の人工林で覆われた源流部。

上流部 ▶  
周辺の山々に囲まれて上流域を形成している都城盆地。



◀ 中流部  
都城盆地と宮崎平野の間に位置し、日向山地と鱈塚山地に挟まれた中流域狭窄部。

下流部 ▶  
沖積平野と洪積台地からなる、都市化の集中する下流域宮崎市街部。



1. 大淀川の概要  
 1.1 流域及び河川の概要

1.1.5 歴史・文化

大淀川流域には歴史的に重要な文化財・史跡が多く、表 1.1.3 に示すとおり国指定で 24 件、県指定で 74 件もの文化財が存在します。

(1) 国指定 表 1.1.3 大淀川流域内文化財一覧表

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
1	重文	木造薬師如来及両脇侍像（三軀）	宮崎県宮崎市（王楽寺）	S19. 9. 5
2	重文	木造阿弥陀如来及両脇侍像（三軀）	宮崎県東諸県郡国富町（万福寺）	S19. 9. 5
3	重文	旧黒木家住宅	宮崎県宮崎市（県総合博物館）	S48. 2. 23
4	重文	旧藤田家住宅	宮崎県宮崎市（県総合博物館）	S48. 2. 23
5	重文	興玉神社内神殿	宮崎県都城市（興玉神社）	S58. 6. 2
6	重文	紺糸威紫白肩裾胴丸大袖付	宮崎県都城市（都城島津邸）	H 6. 6. 28
7	重文	朝鮮国書	宮崎県都城市（都城島津邸）	H27. 9. 4
8	重有	日向の山村生産用具	宮崎県宮崎市（県総合博物館）	H 5. 4. 15
9	重無	山之口の文弥人形	宮崎県都城市山之口町（龍文弥人形浄瑠璃資料館）	H 7. 12. 26
10	重無	高原の神舞	宮崎県西諸県郡高原町	H22. 3. 11
11	史跡	本庄古墳群	宮崎県東諸県郡国富町	S 9. 8. 9
12	史跡	今町一里塚	宮崎県都城市	S10. 12. 24
13	史跡	生目古墳群	宮崎県宮崎市	S18. 9. 8
14	史跡	蓮ヶ池横穴群	宮崎県宮崎市	S46. 7. 17
15	天	狭野のスギ並木	宮崎県西諸県郡高原町（狭野神社）	T13. 12. 9
16	天	関之尾の甌穴	宮崎県都城市関之尾町	S 3. 2. 18
17	天	高岡の月知梅	宮崎県宮崎市高岡町	S10. 12. 24
18	天	去川のイチョウ	宮崎県宮崎市高岡町	S10. 12. 24
19	天	宮崎神社のオオシラフジ	宮崎県宮崎市（宮崎神宮）	S26. 6. 9
20	天	瓜生野八幡のクスノキ群	宮崎県宮崎市（瓜生野八幡神社）	S26. 6. 9
21	天	エヒメアヤメ自生南限地帯	宮崎県小林市	S43. 6. 14
22	天	甌岳針葉樹林	宮崎県えびの市	S44. 8. 22
23	天	竹野のホルトノキ	宮崎県東諸県郡綾町	S52. 2. 17
24	天	オオヨドカワゴロモの自生地	宮崎県小林市	H28. 3. 1

(2) 県指定

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
1	重文	木造弘法大師坐像	熊本県多良木町槻木	S44. 3. 20
2	重文	神面	熊本県多良木町槻木	S44. 3. 20
3	有文	木造阿弥陀如来坐像（一軀）	宮崎県宮崎市（県総合博物館）	S40. 8. 17
4	有文	木造薬師如来及び両脇侍像（三軀）	宮崎県東諸県郡国富町（法華薬師寺）	S40. 8. 17
5	有文	須弥壇（一基）	宮崎県東諸県郡国富町（法華薬師寺）	S40. 8. 17
6	有文	朱塗丸盆（四枚）	宮崎県都城市	S40. 8. 17
7	有文	六地藏幢	宮崎県小林市	S40. 8. 17
8	有文	木造阿弥陀如来坐像（一軀）	宮崎県東諸県郡綾町（川中神社）	S46. 6. 11
9	有文	米良の民家	宮崎県宮崎市（県総合博物館）	S52. 4. 1
10	有文	土持文書	宮崎県宮崎市（県総合博物館）	S58. 1. 21
11	有文	東霧島の梵鐘	宮崎県都城市（東霧島神社）	S60. 12. 17
12	有文	木造薬師如来坐像（一軀）	宮崎県東諸県郡国富町（三弓堂）	S61. 3. 25
13	有文	木造聖観音菩薩坐像（一軀）	宮崎県東諸県郡国富町（三弓堂）	S61. 3. 25
14	有文	男神像及び女神像（四軀）	宮崎県都城市（千足神社）	S34. 7. 10
15	有文	兼喜神社社殿	宮崎県都城市（兼喜神社）	H 6. 11. 28

(凡例) 重文：重要文化財 重有：重要有形民俗文化財 無民：無形民俗文化財  
 重無：重要無形民俗文化財 有文：有形文化財 天：天然記念物

注) 『平成30年度宮崎県文化財行政要覧』より。  
 注) 鹿児島県HPより。

1. 大淀川の概要  
 1.1 流域及び河川の概要

(2) 県指定 表 1.1.3 大淀川流域内文化財一覧表

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
16	有文	下北方地下式横穴5号出土品(一括)	宮崎県宮崎市	H20. 3.31
17	有文	伊東祐青奉納墨書天井画	宮崎県東諸県郡国富町	H29. 8.28
18	有文	旧二見家住宅	宮崎県宮崎市高岡町	H30. 2.26
19	無民	輪太鼓踊	宮崎県小林市	S37. 5.15
20	無民	バラ太鼓踊	宮崎県東諸県郡国富町	S37. 5.15
21	無民	熊襲踊	宮崎県都城市	S47. 9.26
22	無民	山之口弥五郎どん祭り	宮崎県都城市山之口町	H 2. 3.27
23	無民	高木の揚げ馬	宮崎県都城市	H 6. 3.25
24	無民	花木あげ馬	宮崎県都城市山之口町	H 6. 3.25
25	無民	穂満坊あげ馬	宮崎県都城市高城町	H 6. 3.25
26	無民	末吉住吉神社の流鏝馬	鹿児島県曾於市末吉町二之方住吉	S56. 3.27
27	無民	末吉町熊野神社の鬼追い	鹿児島県曾於市末吉町深川	H 6. 3.16
28	無民	西米良神楽	宮崎県児湯郡西米良村	H 9. 3.24
29	史跡	去川の関跡	宮崎県宮崎市高岡町	S 8.12. 5
30	史跡	刀工田中国広宅跡	宮崎県東諸県郡綾町	S 8.12. 5
31	史跡	本庄の石仏	宮崎県東諸県郡国富町	S 8.12. 5
32	史跡	谷村計介旧宅跡	宮崎県宮崎市	S 8.12. 5
33	史跡	何欽吉墓	宮崎県都城市	S 9. 4.17
34	史跡	伊東塚	宮崎県小林市	S 9. 4.17
35	史跡	祝吉御所跡	宮崎県都城市	S 9. 4.17
36	史跡	紙屋池の原一里塚	宮崎県小林市野尻町	S11. 7.17
37	史跡	紙屋漆野原一里塚	宮崎県小林市野尻町	S11. 7.17
38	史跡	石器時代住居跡尾平野洞窟	宮崎県都城市	S32.12.15
39	史跡	東麓石窟仏	宮崎県小林市野尻町	S32.12.15
40	史跡	本田遺跡	宮崎県小林市	S51. 3.26
41	史跡	観音瀬水路	宮崎県都城市	H17. 3.31
42	史跡	赤江町古墳	宮崎県宮崎市	S 8.12. 5
43	史跡	野尻村古墳	宮崎県小林市野尻町	S 8.12. 5
44	史跡	綾町古墳	宮崎県東諸県郡綾町	S 8.12. 5
45	史跡	倉岡村古墳	宮崎県宮崎市	S 8.12. 5
46	史跡	都城市古墳	宮崎県都城市	S 9. 4.17
47	史跡	志和池村古墳	宮崎県都城市	S 9. 4.17
48	史跡	須木村古墳	宮崎県小林市須木	S 9. 4.17
49	史跡	八代村古墳	宮崎県東諸県郡国富町	S 9. 4.17
50	史跡	高城町古墳	宮崎県都城市高城町	S10. 7. 2
51	史跡	都城市沖水古墳	宮崎県都城市	S11. 7.17
52	史跡	山之口村古墳	宮崎県都城市山之口町	S11. 7.17
53	史跡	木脇村古墳	宮崎県東諸県郡国富町	S11. 7.17
54	史跡	宮崎市大淀古墳	宮崎県宮崎市	S12. 7. 2
55	史跡	木花村古墳	宮崎県宮崎市	S12. 7. 2
56	史跡	住吉村古墳	宮崎県宮崎市	S14. 1.27
57	史跡	本庄町古墳	宮崎県東諸県郡国富町	S14. 1.27
58	史跡	小林町古墳	宮崎県小林市	S14. 1.27
59	史跡	宮崎市下北方古墳	宮崎県宮崎市	S14. 4.21
60	史跡	高岡町古墳	宮崎県宮崎市高岡町	S17. 6.23
61	史跡	高崎町古墳	宮崎県都城市高崎町	S17. 6.23

(凡例) 重文：重要文化財 重有：重要有形民俗文化財 無民：無形民俗文化財  
 重無：重要無形民俗文化財 有文：有形文化財 天：天然記念物

注) 『平成30年度宮崎県文化財行政要覧』より。

注) 鹿児島県HPより。

1. 大淀川の概要  
 1.1 流域及び河川の概要

(2) 県指定 表 1.1.3 大淀川流域内文化財一覧表

番号	種別	名称	所在地	指定年月日
62	史跡	生目村古墳	宮崎県宮崎市	S19. 12. 15
63	史跡	高原町古墳	宮崎県西諸県郡高原町	S19. 12. 15
64	史跡	瓜生野村古墳	宮崎県宮崎市	S19. 12. 15
65	史跡	池内横穴	宮崎県宮崎市	S47. 5. 26
66	史跡	船塚古墳	宮崎県宮崎市神宮2丁目（宮崎神宮内）	S52. 4. 1
67	天	大師のコウヤマキ	熊本県多良木町槻木	S44. 3. 20
68	天	溝ノ口洞穴	鹿児島県曾於市財部町大塚原	S30. 1. 14
69	名勝	須木の滝	宮崎県小林市須木	S 8. 12. 5
70	天	森永の化石群	宮崎県東諸県郡国富町	S12. 7. 2
71	天	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎県宮崎市（延岡市，日南市）	S55. 6. 24
72	天	綾のイチイガシ	宮崎県東諸県郡綾町	S60. 1. 4
73	天	天林寺のオハツキイチョウ	宮崎県宮崎市（天林寺境内）	S60. 12. 17
74	天	山田のイチヨウ	宮崎県都城市山田町	S14. 1. 27

(凡例) 重文：重要文化財                      重有：重要有形民俗文化財                      無民：無形民俗文化財  
 重無：重要無形民俗文化財                      有文：有形文化財                      天：天然記念物

注) 『平成30年度宮崎県文化財行政要覧』より。

注) 鹿児島県HPより。



高岡町去川の大イチョウ（国指定天然記念物）

樹齢800年、幹周約10m、高さ約41mの古木で、島津家初代忠久公が薩摩街道のこの地に植えたといわれている。



興玉神社内神殿（国指定重要文化財）

宮崎県最古の建造物であり、その様式は、禅宗様（唐様）といい、禅宗とともに寺院建築の新様式として、中国大陸から鎌倉時代に伝来し、日本全土に広がっている。



蓮ヶ池横穴群（国指定史跡）

市街北方の国道10号沿い、小池の散在する丘陵地の斜面にある。6,7世紀ごろの築造と見られる横穴古墳が、現在82基確認されており、この地方の古代を知るうえでの貴重な史料となっている。



1. 大淀川の概要  
 1.1 流域及び河川の概要

1.1.6 土地利用

大淀川流域の土地利用は、森林が全体の約 68%を占め、田・畑等の耕地が約 22%、宅地等市街地が約 10%の割合になっています。

表 1.1.4 土地利用の現況

項目	面積 (km <sup>2</sup> )	全面積に占める割合 (%)
流域面積	2,230.0	100
森林面積	1,516.8	68
耕地面積(田・畑)	487.6	22
宅地その他	225.6	10

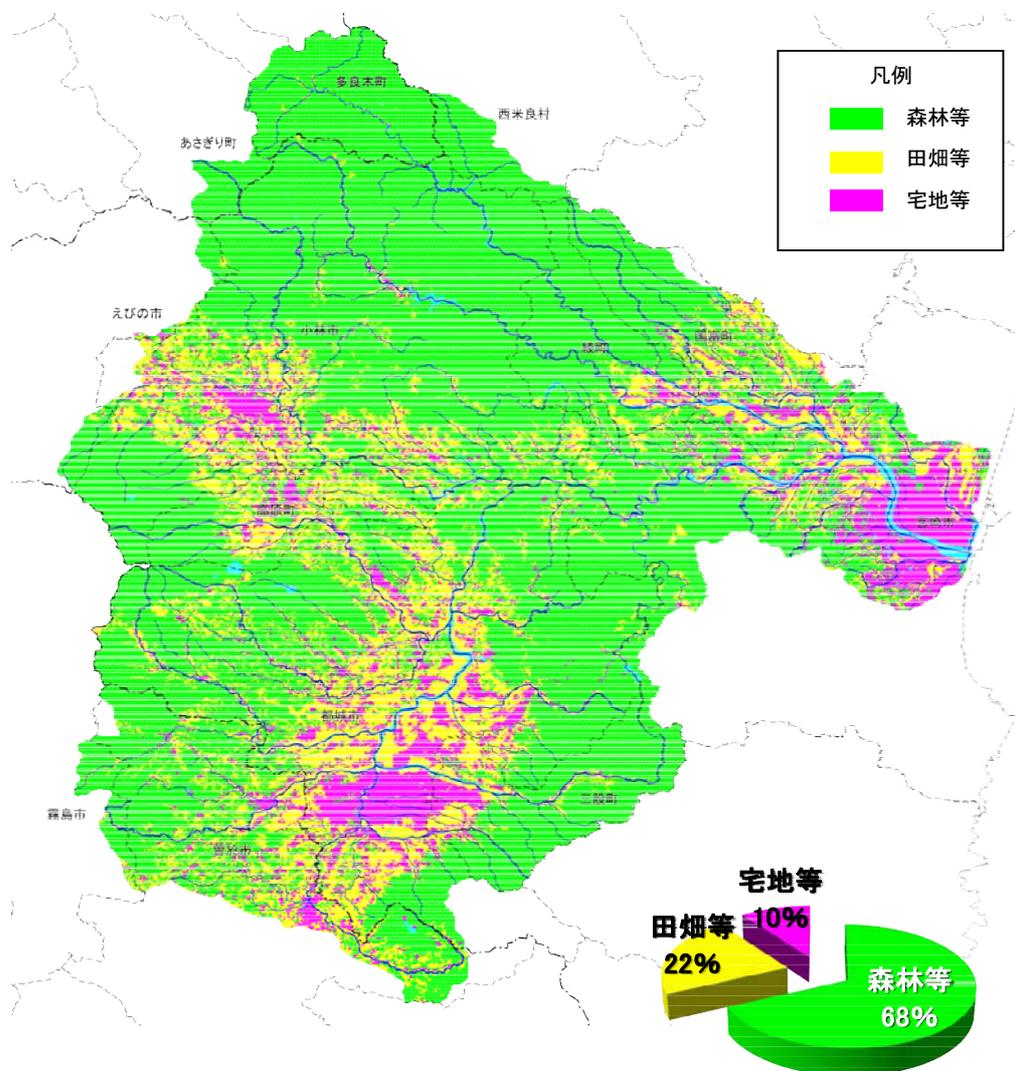


図 1.1.10 大淀川流域における土地利用図

【出典：国土数値地図 H26 土地利用メッシュデータ】  
 ※国土数値地図において、田・その他の農用地・ゴルフ場を田畑等（黄色）として、建物用地・幹線交通用地・その他の用地を宅地等（赤色）として、森林・荒地を森林等（緑色）として整理。

1. 大淀川の概要  
1.1 流域及び河川の概要

1.1.7 人口

大淀川流域の関係自治体は、宮崎市や都城市をはじめ6市6町1村から構成されており、流域内人口は平成22年時点で約60万人、想定氾濫区域内人口は約15万人となっています。市町毎にみると、宮崎市は増加、都城市は減少傾向となっています。

表 1.1.5 流域内人口の推移

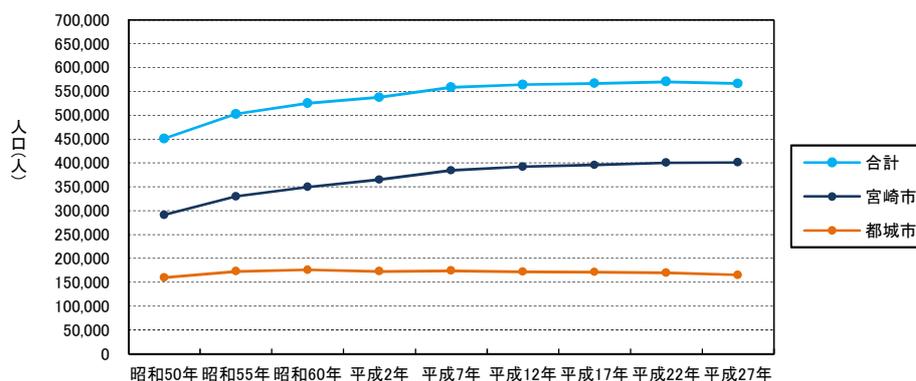
年次 区分	昭和35年 (人)	昭和40年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)	平成22年 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
流域内	434,708	436,968	509,101	567,377	566,554	585,767	601,321	599,085	596,822	603,018	270.4
想定氾濫 区域内	—	—	—	—	—	—	133,803	140,943	141,822	148,024	1,655.7
宮崎市	—	—	291,157	329,751	349,465	365,080	384,391	392,178	395,593	400,583	—

【出典：流域内人口・想定氾濫区域内人口は「第10回河川現況調査（調査基準年：平成22年）」、宮崎市人口は「国勢調査」】

表 1.1.6 流域関連主要都市人口の推移

区分	市町村名	人口(人)									
		昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	
市	宮崎市	旧宮崎市	234,347	264,855	279,114	287,352	300,068	305,755	310,123	316,198	317,000
		旧清武市	11,765	14,528	16,629	22,507	27,127	28,755	28,696	28,891	29,276
		旧田野町	9,856	10,806	11,417	11,645	12,428	12,321	11,580	11,025	10,706
		旧佐田原町	22,715	26,932	29,607	30,758	31,827	32,499	32,981	32,941	33,201
		旧高岡町	12,474	12,630	12,698	12,818	12,941	12,848	12,213	11,528	10,955
		計	291,157	329,751	349,465	365,080	384,391	392,178	395,593	400,583	401,138
	都城市	旧都城市	118,289	129,009	132,098	130,153	132,714	131,922	133,062	134,050	132,264
		旧山之口町	7,106	7,773	7,743	7,614	7,561	7,322	6,935	6,635	6,310
		旧高城町	12,727	13,591	13,804	13,321	12,915	12,570	11,944	11,191	10,392
		旧山田町	8,597	8,997	8,932	8,781	8,811	8,615	8,288	7,809	7,071
		旧高崎町	12,907	13,285	13,151	12,724	12,053	11,383	10,726	9,917	8,992
計	159,626	172,655	175,728	172,593	174,054	171,812	170,955	169,602	165,029		
合計	450,783	502,406	525,193	537,673	558,445	563,990	566,548	570,185	566,167		

【出典：宮崎県統計年鑑】



【出典：宮崎県統計年鑑】

図 1.1.11 流域関連主要都市人口の推移

1. 大淀川の概要  
1.1 流域及び河川の概要

1.1.8 産業

流域内の総資産額は平成 22 年時点で約 10 兆 9,500 億円で、その約半分は家屋資産が占めています。

流域内の産業は、温暖な気候と大きな盆地、広い平野、豊かな森林に恵まれていることから特徴ある多様な農畜産業が盛んであり、中でも宮崎市や都城市で生産される宮崎牛やマンゴー、きゅうり、ピーマン等は「みやざきブランド」として全国各地に出荷されています。また、霧島の伏流水により生み出される焼酎も日本一の出荷額を誇っています。

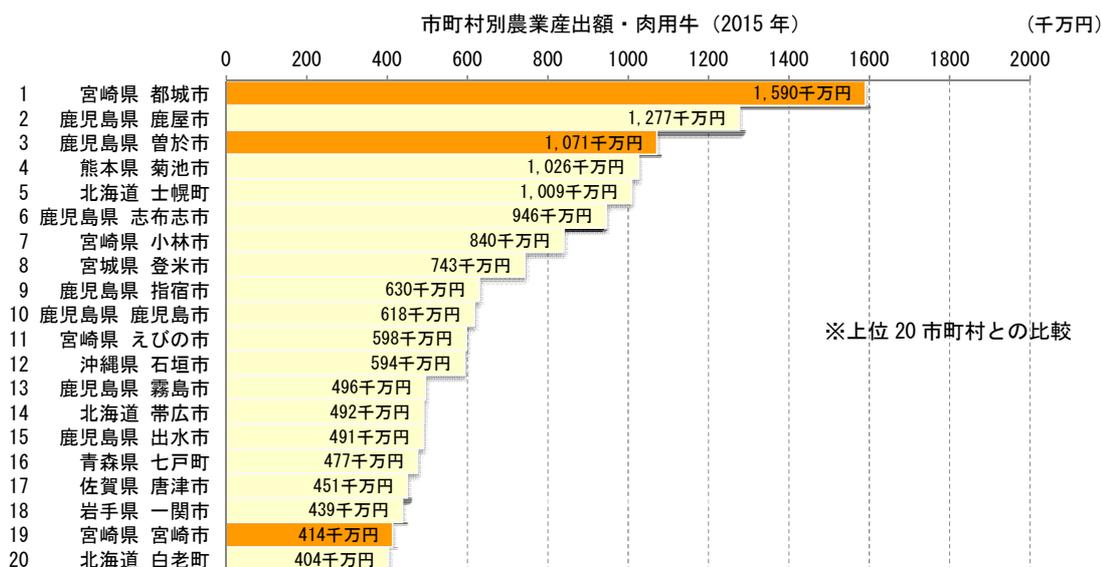
鹿児島県曾於市では、鹿児島黒牛、かごしま黒豚、ゆず等が「そお市認定ブランド」として全国各地に出荷されています。

表 1.1.7 流域内資産額 (単位：百万円)

家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
5,762,590 (52.6)	3,676,121 (33.6)	1,479,049 (13.5)	37,126 (0.3)	10,954,886 (100.0)

注：( ) 書きは合計に対する比率

【出典：「第10回河川現況調査（調査基準年：平成22年）」】



【出典：農林水産省 統計情報 わがマチ・わがムラ】

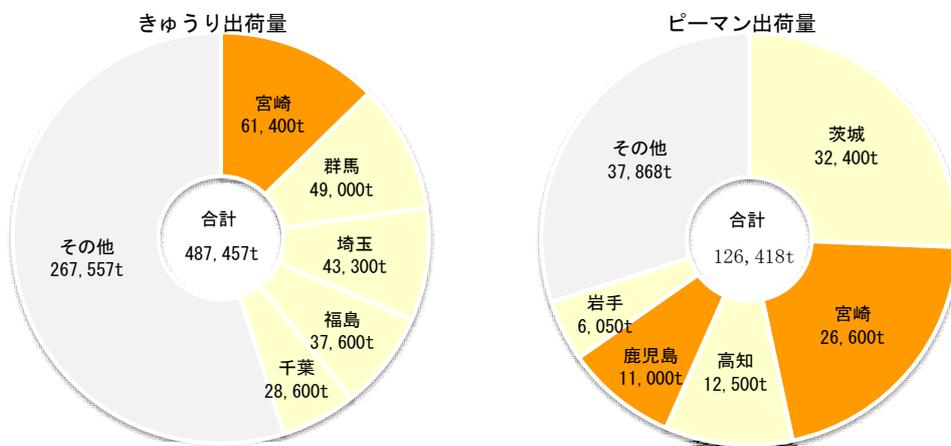


図 1.1.12 主な農畜産出荷額等

【出典：平成 25 年産野菜生産出荷統計】

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革

1.2 治水の沿革

1.2.1 水害の発生状況

大淀川流域の年平均降水量は約 2,600 mm 程度であり、洪水の原因の多くは 8 月～9 月に発生する台風に伴う降雨によるものです。

大淀川の主要な洪水は昭和 29 年 9 月洪水、昭和 57 年 8 月洪水、平成 5 年 8 月洪水、平成 9 年 9 月洪水、平成 16 年 8 月洪水、平成 17 年 9 月洪水、平成 22 年 7 月洪水等であり、その中でも昭和 29 年 9 月洪水や昭和 57 年 8 月洪水、並びに平成 17 年 9 月洪水は、治水計画改定の契機となるような特に大きな洪水となりました。

表 1.2.1 既往主要洪水の概要

洪水名 (発生原因)	流量(m <sup>3</sup> /s) <sup>*1</sup> <柏田>	被害状況 <sup>*2</sup>	備考
S11 年 7 月 22～23 日 (暴風雨)	不明	死者 : 3 名 負傷者 : 2 名 家屋全壊 : 6 戸 家屋半壊 : 7 戸 家屋流出 : 7 戸 家屋浸水 : 5173 戸	昭和 2 年 大淀川下流、本庄川下流の直轄改修工事 計画高水流量 : 5,500m <sup>3</sup> /s<宮崎地点>
S18 年 9 月 18～20 日 (台風第 26 号)	不明	死者 : 114 名 負傷者 : 161 名 行方不明 : 1 名 家屋全壊 : 567 戸 家屋半壊 : 1165 戸 家屋流出 : 508 戸 床上浸水 : 9361 戸	
S24 年 8 月 14～16 日 (台風第 9 号)	不明	死者 : 7 名 負傷者 : 15 名	昭和 24 年 大淀川上流の直轄改修工事 計画高水流量 : 3,000m <sup>3</sup> /s<樋渡地点>
S29 年 9 月 10～13 日 (台風第 12 号)	約 7,000	死者 : 5 名 負傷者 : 10 名 家屋全壊 : 72 戸 家屋半壊 : 215 戸 家屋流出 : 28 戸 床上浸水 : 3173 戸 床下浸水 : 5303 戸	昭和 28 年 総体計画 計画高水流量 : 4,000m <sup>3</sup> /s<樋渡地点> : 7,000m <sup>3</sup> /s<宮崎地点>
S46 年 8 月 26～30 日 (台風第 23 号)	約 6,000	負傷者 : 4 名 家屋全壊 : 4 戸 家屋半壊 : 6 戸 床上浸水 : 294 戸 床下浸水 : 1083 戸	昭和 39 年 総体計画 基本高水のピーク流量 : 7,500m <sup>3</sup> /s<宮崎地点> 計画高水流量 : 7,000m <sup>3</sup> /s<宮崎地点>
S57 年 8 月 24～27 日 (台風第 13 号)	約 7,800	家屋半壊 : 18 戸 床上浸水 : 264 戸 床下浸水 : 463 戸	昭和 40 年 工事実施基本計画 基本高水のピーク流量 : 7,500m <sup>3</sup> /s<宮崎地点> 計画高水流量 : 7,000m <sup>3</sup> /s<宮崎地点>
H 1 年 7 月 24～8 月 3 日 (台風第 11 号)	約 7,000	家屋半壊 : 62 戸 床上浸水 : 79 戸 床下浸水 : 323 戸	
H 2 年 9 月 27～29 日 (台風第 20 号)	約 6,300	行方不明者 : 1 名 負傷者 : 5 名 家屋全壊 : 2 戸 家屋半壊 : 57 戸 床上浸水 : 1187 戸 床下浸水 : 1908 戸	
H 5 年 7 月 31 日～8 月 2 日 (前線)	約 7,700	死者 : 1 名 負傷者 : 2 名 家屋全壊 : 12 戸 家屋半壊 : 2 戸 床上浸水 : 771 戸 床下浸水 : 784 戸	平成 15 年 河川整備基本方針の策定 基本高水のピーク流量 : 9,700m <sup>3</sup> /s<柏田地点> 計画高水流量 : 8,700m <sup>3</sup> /s<柏田地点>
H 9 年 9 月 14～16 日 (台風第 19 号)	約 8,000	死者 : 2 名 負傷者 : 3 名 家屋全壊 : 1 戸 家屋半壊 : 24 戸 床上浸水 : 401 戸 床下浸水 : 586 戸	平成 17 年 大淀川激甚災害対策特別緊急事業
H16 年 8 月 29～30 日 (台風第 16 号)	約 7,300	負傷者 : 7 名 家屋全壊 : 2 戸 家屋半壊 : 5 戸 家屋流出 : 7 戸 床上浸水 : 164 戸 床下浸水 : 203 戸	平成 18 年 河川整備計画の策定 河川整備計画の目標流量 : 8,100m <sup>3</sup> /s<柏田地点> 河道の配分流量 : 7,200m <sup>3</sup> /s<柏田地点>
H17 年 9 月 4～6 日 (台風第 14 号)	約 10,500	家屋全壊 : 908 戸 家屋半壊 : 2147 戸 床上浸水 : 3834 戸 床下浸水 : 872 戸	平成 28 年 河川整備基本方針の変更 基本高水のピーク流量 : 11,700m <sup>3</sup> /s<柏田地点> 計画高水流量 : 9,700m <sup>3</sup> /s<柏田地点>

※1 昭和 35 年以前の流量は、雨量からの推算値。

昭和 36 年以降の流量は、実績流量 + (ダムなし計算流量 - ダムあり計算流量) の流量を 100m<sup>3</sup>/s 単位で切り上げた値。

※2 昭和 24 年以前については宮崎県下、昭和 29 年以降については流域関連市町の被害状況。

被害状況 (出典 : 高水速報等) には、支川等からの氾濫による被害も含む。

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革

(1) 昭和 29 年 9 月 10~13 日洪水

台風第 12 号の接近により、9 月 10 日より降り始めた雨は 12~13 日に豪雨となり、総雨量は平野部で 250~300 mm、山地部で 700~1000 mm となりました。

河川の水位は 12 日夕刻、各地点共指定水位に達し、13 日早朝、各地点が警戒水位に達するという異常な増水記録を示し、高岡町を始めとする中流各地域、及び下流の宮崎市内には 13 日 12 時~13 時に沿川住民に対する避難命令が発令されました。

この大洪水によって、浦之名川合流点付近、及び高岡町狩野の一部は濁流にのまれ、大丸橋右岸取付道路約 20m も 13 日 18 時頃流失、下流では高松橋が 13 日 18 時頃流失、小戸橋も高松橋の流失橋材が押し寄せたことにより流失しました。

この洪水による被害は、死者 5 人、負傷者 10 人、流失全壊家屋 100 戸、半壊 215 戸、床上浸水 3173 戸、床下浸水 5303 戸でした。



提供：宮崎日日新聞社

1. 大淀川の概要  
1.2 治水の沿革



右岸大塚町付近の浸水状況（宮崎市）



流失寸前の赤星橋  
（都城市）

源野橋の流失  
（都城市・横市川）

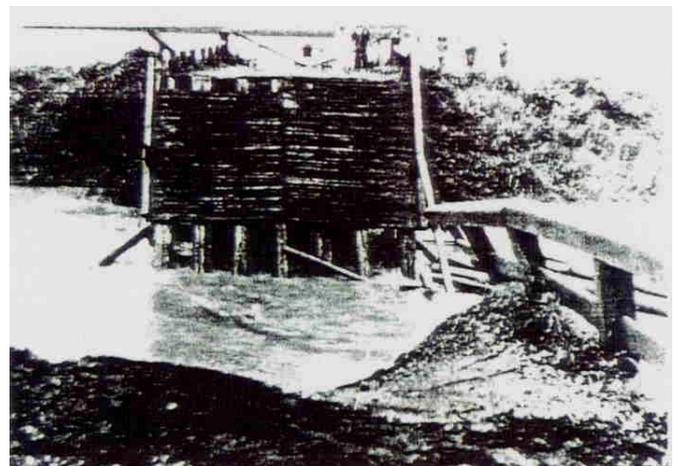


写真 1.2.1(1) 昭和 29 年 9 月洪水時の浸水状況

1. 大淀川の概要

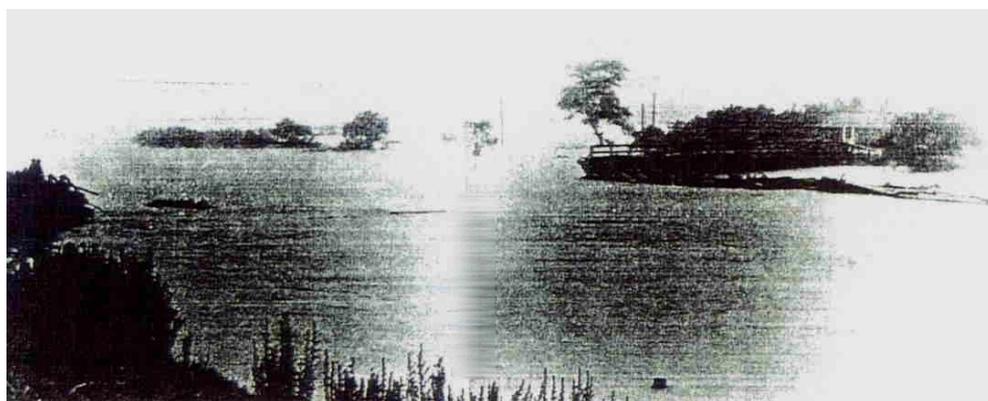
1.2 治水の沿革



軒先まで浸水した家  
(高岡町)



流失した高松橋 (宮崎市)



流失する二巖寺橋 (都城市)

写真 1. 2. 1 (2) 昭和 29 年 9 月洪水時の浸水状況

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革

(2) 昭和 57 年 8 月 24~27 日洪水

台風第 13 号が宮崎市付近を通過し、日向灘を北上したため、宮崎県下全域は暴風雨域に入り、25 日~27 日にかけて各地で大雨となりました。

大淀川上流の三股で 51 mm、青井岳で 45 mm、本庄川上流の田代八重で 42 mm、須木で 44 mm の時間雨量を記録し、総雨量も三股で 642 mm、青井岳で 492 mm、田代八重で 558 mm、須木で 439 mm となりました。

河川の水位も、26 日 22 時には宮崎観測所で警戒水位 3.70m を突破し、27 日 6 時には最高水位 5.40m を記録しました。また、支川本庄川の嵐田観測所でも警戒水位 3.60m を突破し、27 日 4 時には最高水位 5.24m を記録しました。

流域では人的被害はなかったものの、家屋半壊 18 戸、床上浸水 264 戸、床下浸水 463 戸におよびました。



提供：宮崎日日新聞社

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革



下小松地区  
(8/000 右岸付近)  
浸水状況



下小松地区  
(8/000 右岸付近)  
浸水状況



下小松地区  
(8/000 右岸付近)  
浸水状況

写真 1.2.2 昭和 57 年 8 月洪水時の浸水状況

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革

(3) 平成5年7月31～8月2日洪水

前線の活発化に伴い、九州南部地方は大雨となりました。大淀川流域では7月31日1時ごろより降り出した雨が断続的に降り続き、<sup>たけした</sup>岳下で62mm、青井岳で63mm、<sup>ひわたし</sup>樋渡で69mmの時間雨量を記録したのをはじめ、御池で記録した8月1日16時から17時の時間雨量83mmを最高に流域全般で大雨が降り続けました。また、総雨量でも<sup>すのうら</sup>巢之浦の699mmを最高に、樋渡で605mm、<sup>しか</sup>四家で534mm、<sup>みいけ</sup>御池で661mm等の降雨を記録し、各水位観測所で警戒水位を超える洪水となりました。

この洪水による被害は死者1人、負傷者2人、家屋の全壊12戸、半壊2戸、床上浸水771戸、床下浸水784戸におよびました。



提供：宮崎日日新聞社

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革



青柳川流域  
宮崎市大塚町  
高松橋方向を望む



宮崎市小松地区

写真 1.2.3 平成5年8月洪水時の浸水状況

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革

(4) 平成9年9月12～16日洪水

台風第19号の接近に伴い、宮崎県全域が大雨となりました。

大淀川流域では9月14日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、16日1時頃より雨は強まり、末吉で27mm、比曾木野で35mm、青井岳で36mmの時間雨量を記録したのをはじめ、三股で記録した16日2時から3時の時間雨量69mmを最高に大淀川上流域全般で大雨が降りました。また、総雨量でも青井岳で515mm、槻木で469mm、霧島で836mm、三股で873mmを記録し、大淀川全川で警戒水位を超過し、最高水位が岳下で5.31m、高岡で7.08m、柏田で8.22mと過去最高の水位を記録する洪水となりました。

この洪水による被害は、死者2人、負傷者3人、家屋の全・半壊25戸、床上・床下浸水987戸におよびました。

台風19号 県内豪雨、河川はんらん

7万6500人に避難勧告



酒谷川の増水で住宅が孤立し、消防署員らにボートで救出される市民  
—16日午前10時20分

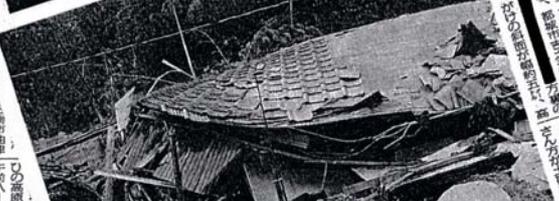
1人死亡  
床上・床下



台風19号本県の被害

死者	1人
行方不明者	1人
負傷者	3人
全壊家屋	135棟
床上浸水	172棟
床下浸水	454棟

襲う土砂 迫る濁流



捜索... 自然の狂

提供：宮崎日日新聞社

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革



宮崎市大塚地区

宮崎市福島地区



宮崎市高岡地区

写真 1.2.4(1) 平成9年9月洪水時の浸水状況

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革



宮崎市高岡地区

宮崎市瓜田地区



写真 1.2.4(2) 平成9年9月洪水時の浸水状況

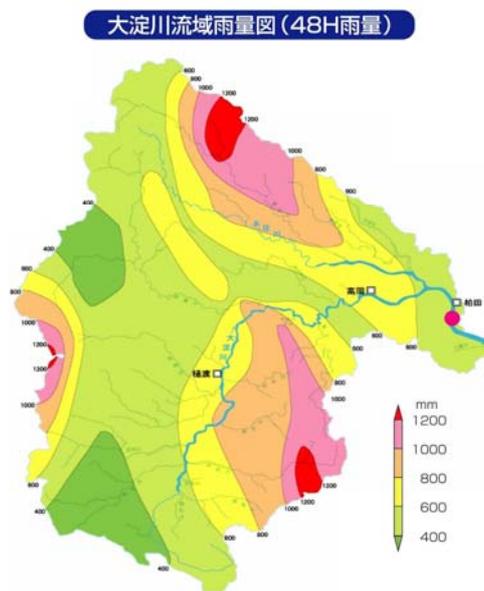
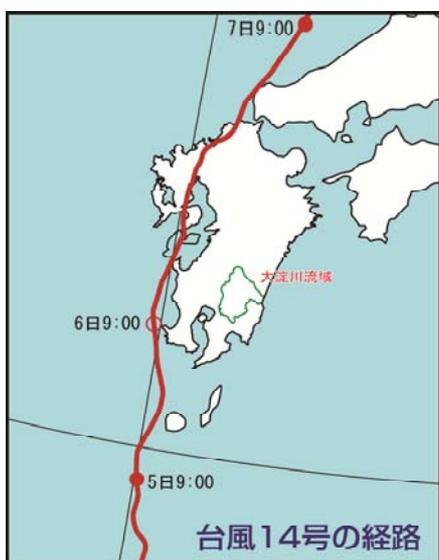
# 1. 大淀川の概要

## 1.2 治水の沿革

### (5) 平成 17 年 9 月 4～6 日洪水

大型で非常に強い台風第 14 号は、宮崎県内を暴風雨域に巻き込みながら、九州の西の海上をゆっくりとした速度で通過し、山地部を中心に総雨量が 1,000mm を超える記録的な豪雨が発生しました。県内でも記録的な豪雨をもたらし、連続雨量は青井岳で 1,144mm、霧島で 1,374mm を記録し、3 日間で年間降水量の 1/3 を越える大雨となりました。

この雨により、基準地点柏田で 9.89m、上流樋渡地点で 10.65m と計画高水位を上回る観測史上最高水位を記録する等、大規模洪水の発生により、大淀川水系の広範囲で多くの浸水被害が発生し、大淀川下流部の宮崎市・<sup>くにとみ</sup>国富町・<sup>あや</sup>綾町等をはじめ、家屋全壊 908 戸、半壊 2,147 戸、浸水面積 3,321ha、浸水家屋 4,706 戸(床上 3,834 戸、床下 872 戸)におよぶ甚大な被害が発生しました。



【宮崎日日新聞社提供】

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革



都城市金田地区



都城市高城町有水地区



宮崎市高岡町内山地区



宮崎市高岡町麓地区



宮崎市瓜生野地区



宮崎市下小松地区

写真 1.2.5 平成 17 年 9 月洪水時の浸水状況

## 1. 大淀川の概要

### 1.2 治水の沿革

#### 1.2.2 治水事業の沿革

大淀川における明治以前の治水事業は、舟路維持をかねて下流部を中心にごく僅か行われました。

本格的な改修工事は昭和2年に直轄事業として着手したことに始まります。

昭和2年に着手した第一次工事は本庄川合流点下流で計画高水流量を $5,500\text{m}^3/\text{s}$ とするものでありましたが、昭和18年9月の洪水により大災害を被りました。

第二次工事は昭和18年9月の洪水をきっかけとして、都城市を中心とした上流域の直轄改修区域を追加するとともに、従来の築堤に加え下流部に導流堤及び突堤を施工しました。昭和28年に全川にわたる計画の再検討を行い、計画高水流量を宮崎地点で $7,000\text{m}^3/\text{s}$ 及び樋渡地点で $4,000\text{m}^3/\text{s}$ とそれぞれ改定しました。その後、昭和28年に西日本を襲った洪水を契機に綾南（昭和33年竣工）、綾北（昭和35年竣工）の両多目的ダムを建設するなどの第三次工事を行いました。

昭和39年に着手した第四次工事は昭和29年8月及び9月の相次ぐ台風の来襲により、甚大な被害が発生したことにより、宮崎地点における基本高水のピーク流量を $7,500\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち既設2ダムに新たに岩瀬ダムを加え、計画高水流量を $7,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、捷水路の施工及び水衝部への護岸の設置に着手しました。

この後、新河川法の施行により、第四次工事を踏襲する形で昭和40年4月に工事実施基本計画が策定されました。

この計画に基づき、岩瀬ダムの建設（昭和42年竣工）、高木捷水路の開削、堤防の拡築及び護岸の設置等を実施しました。

大淀川の上流域は、霧島山などの火山噴出物が堆積した脆弱な地質を呈しており、土砂災害の発生が危惧されることなどから、昭和25年度より上流域の沖水川において直轄砂防事業に着手し、昭和48年度に完成しました。

また、昭和41年、43年、47年の度重なる土砂災害を契機に、上流域の高崎川では昭和48年度より直轄砂防事業を実施しています。

一方、河口部については、昭和58年に高潮堤防を概成させた後、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災の教訓を受け、地震に伴う基礎地盤の液状化により、堤防が沈下した場合の浸水による二次被害のおそれがある区間については、耐震対策を進めました。

さらに、過去の洪水時において漏水が発生した箇所、及び地質条件等から漏水のおそれがある区間については、漏水対策を実施しました。

こうした治水事業を展開してきたものの、昭和57年8月、平成5年8月及び平成9年9月に当時の計画高水流量と同程度またはそれ以上の洪水が発生し、甚大な浸水被害も頻発していたため、これらの洪水を契機に平成9年の河川法改正を受け、平成15年2月には基準地点柏田における基本高水のピーク流量を $9,700\text{m}^3/\text{s}$ 、このうち綾南ダム、綾北ダム、岩瀬ダム等と併せ流域内の洪水調節施設により $1,000\text{m}^3/\text{s}$ を調節して計画高水流量を $8,700\text{m}^3/\text{s}$ とする「大淀川水系河川整備基本方針」が策定されました。

その後、平成17年9月に既往最大となる洪水が発生したため、河川激甚災害対策特別緊急事業が採択されました。平成18年3月には同事業内容を踏まえた河川整備計画も策定し、河川激

# 1. 大淀川の概要

## 1.2 治水の沿革

甚災害対策特別緊急事業を5箇年で実施し、引き続き河川整備計画に基づく河川整備を実施してきました。

平成28年7月には、平成17年9月洪水を始めとする近年の洪水を踏まえた河川整備基本方針の変更を行い、基準地点柏田における基本高水のピーク流量を11,700m<sup>3</sup>/sとし、このうち洪水調節施設により2,000m<sup>3</sup>/sを調節し、河道への配分流量を9,700m<sup>3</sup>/sとしました。



図 1.2.1 大淀川的主要な河川整備の位置図

1. 大淀川の概要

1.2 治水の沿革

表 1.2.2 大淀川における主要な治水事業の沿革

年号	西暦	事 項	
		計画の変遷等	主な事業内容
大正 10	1921	・宮崎県により改修に着手	
昭和 2	1927	・大淀川下流、本庄川下流の直轄改修工事に着手	・宮崎市周辺の築堤
昭和 18	1943	・台風第 26 号による大洪水	
昭和 24	1949	・大淀川上流の直轄改修工事に着手 計画高水流量 樋渡 3,000m <sup>3</sup> /s	・全川にわたる築堤・掘削 ・萩原川の改修 (昭和 26 年度～昭和 37 年度) ・庄内川(宮崎県知事管理区間)の改修 (昭和 26 年度～昭和 61 年度)
昭和 28	1953	・総体計画の策定 計画高水流量 樋渡 4,000m <sup>3</sup> /s 宮崎 7,000m <sup>3</sup> /s	
昭和 29	1954	・台風第 12 号による大洪水	・綾南ダム完成(昭和 33 年) ・綾北ダム完成(昭和 35 年) ・年見川の改修(昭和 35 年度～平成 3 年度) ・三名川の改修(昭和 39 年度～平成元年度)
昭和 39	1964	・総体計画の策定 計画規模 1/70 基本高水のピーク流量 宮崎 7,500m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 宮崎 7,000m <sup>3</sup> /s	
昭和 40	1965	・大淀川水系一級河川に指定 ・大淀川工事実施基本計画の策定 (総体計画を踏襲)	・八重川(宮崎県知事管理区間)の改修 (昭和 40 年度～昭和 57 年度) ・大谷川の改修(昭和 40 年度～平成 3 年度) ・梅北川の改修(昭和 41 年度～昭和 62 年度) ・岩瀬ダム完成(昭和 42 年) ・高崎川(宮崎県知事管理区間)の改修 (昭和 42 年度～昭和 51 年度) ・飯田川の改修(昭和 45 年度～昭和 60 年度) ・姫城川の改修(昭和 48 年度～平成 2 年度)
昭和 47	1972	・八重川直轄河川に編入	・新大谷川水門の完成(昭和 49 年度) ・新別府川の改修 (昭和 49 年度～平成 11 年度) ・青柳排水機場暫定完成(昭和 52 年度)
昭和 57	1982	・台風第 11 号による大洪水	・山内川の改修(昭和 58 年度～平成 10 年度)
平成 5	1993	・前線による大洪水	
平成 9	1997	・台風第 19 号による大洪水	・瓜田ダム完成(平成 10 年) ・田代八重ダム完成(平成 12 年) ・青柳排水機場完成(平成 13 年)
平成 15	2003	・大淀川水系河川整備基本方針の策定 計画規模 1/150 基本高水のピーク流量 柏田 9,700m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 柏田 8,700m <sup>3</sup> /s	
平成 17	2005	・台風第 14 号による大洪水 ・河川激甚災害対策特別緊急事業の採択	
平成 18	2006	・河川整備計画の策定 目標流量 柏田 8,100m <sup>3</sup> /s 河道の配分流量 柏田 7,200m <sup>3</sup> /s	
平成 22	2010	・河川激甚災害対策特別緊急事業の完成	・瓜生野川排水機場完成(平成 22 年) ・瓜田川排水機場完成(平成 22 年)
平成 28	2016	・河川整備基本方針の変更 基本高水のピーク流量 柏田 11,700m <sup>3</sup> /s 計画高水流量 柏田 9,700m <sup>3</sup> /s	

## 1. 大淀川の概要

### 1.3 利水の沿革

#### 1.3 利水の沿革

##### (1) 発電

大淀川の発電事業は、大正 2 年 11 月、大淀川支川岩瀬川に 200kW（現在廃止）の高原発電所を設けたのが最初で、その後、大正 15 年 1 月に大淀川第一発電所、昭和 3 年に野尻発電所、昭和 7 年には、大淀川第二発電所が建設されました。

その後発電所の建設はなく、戦後、昭和 33 年に綾第一発電所、昭和 34 年に綾第二発電所が綾川総合開発の一環として建設されました。さらに、昭和 42 年 7 月には岩瀬川発電所が大淀川総合開発事業の一環として建設されました。

現在の発電所数は 16 箇所、使用水量の総計は最大約 470m<sup>3</sup>/s、常時約 100m<sup>3</sup>/s、最大出力は約 21 万 kW です。

##### (2) 農業用水

従来、大淀川流域のかんがい用水は揚水機による小規模水利施設が多い状況でしたが、近年は、7 つの国営かんがい事業の完成により、水を必要としている多くの農地に水がもたらされるようになり、農業生産性の向上が見込まれます。

現在の大淀川水系の総かんがい面積は約 22,000ha になります。

##### (3) 都市用水

大淀川流域において、河川からの取水による上水道を有する市町村は宮崎市のみで、宮崎市以外の市町村は地下水を利用しています。

工業用水については、流域内に大きな工場がなく、現在大淀川の豊富な水は、ほとんど利用されていません。

1. 大淀川の概要

1.3 利水の沿革

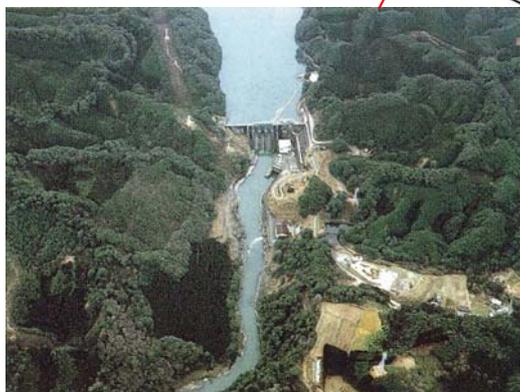
■木森井堰(平成9年完成) [かんがい]



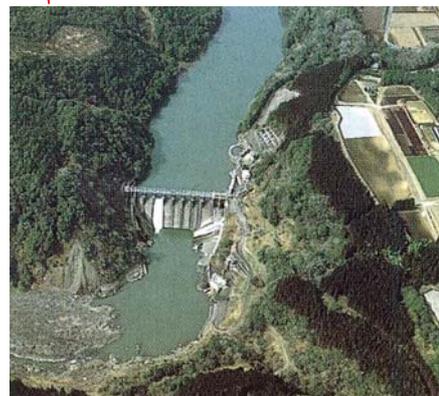
■田代八重ダム(平成12年完成)



[洪水調節・発電・かんがい・流水の正常な機能の維持]



■大淀川第一ダム(昭和36年完成) [発電]



■高岡ダム(昭和7年完成) [発電]

図 1.3.1 大淀川的主要な利水施設の位置図

※[ ]は、各施設の目的